

サンフォルテフェスティバル上映会  
「マルタのやさしい刺繍」  
を鑑賞して

於：富山県民  
共生センター

6月28日(日)

以前より観たいと思っていた。やはり願いは思い続ければ必ずかなうものだ、映画の内容にも感じさせられた。スイスの田舎で夫を亡くし悲しみから抜け出せずにいる主人公マルタ。そして友人たちの励ましや非難中傷も受けながら、一人になった今、若き日に家族のためにあきらめた自分の夢を実現していく。70歳を超えて世に老女といわれる4人のそれぞれの個性がうまく描き出され、絡み合いながら進んでいく物語。主人公マルタの行動に対する村の人々の理解の有無の対比も面白く、ラストのマルタのしわくちゃん笑顔が自信にあふれていて見終わった私も達成感を共有、思わずため息がでた。マルタを支えた友人が夢の実現を見ずに突然と亡くなってしまふのも、人生の終盤について考えさせられる。

(沙魚川 万紀子)

開町400年  
雨にぬれた七夕作り

8月1日(土)

高岡七夕祭り

8月1日。今年の七夕作りは、降りしきる雨の中、役員による男女共同作業となった。なんと悲慘な日になったのかと梅雨の明けぬ空をにらんだが、雨は止みそうにもない。雨に濡れつつも、推進員の皆さんが思いを込めてかいてくださった短冊を1枚1枚読みながら、竹の枝にしっかりと結んだ。途中から七夕ボランティアの女子高生2人がずぶ濡れになりながらも、さわやかに手伝ってくれた。とても温かい気持ちをもたらした。きっと私達の願いである男女共同参画社会が着実に進展することでしょう...そして、女子高生2人の願いも叶うことでしょう...思い出に残る素敵な七夕作りとなった。

(山田 徹)



平等・開発・平和

ともだち共立

第7号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

「女性と理数科」

東京工業大学 教授 石井 志保子



最近大妻嵐山中学校の卒業研究論文集を目にする機会がありました。その中で最優秀賞を受賞した小林美紀さんの論文「あなたが女性から理数を奪う」が目を引きました。題名は過激ですが、論文の中では「女性は理数系に向かない」という世間の偏見が女性を理数から遠ざけている、ということを経験的なデータで地道に立証した力作です。

海外の研究所や大学へ行ったとき、日本より遥かに多くの女性数学者がいることに気がつきます(例えばイタリアでは35%、いっぽう日本では2%)。また数学を勉強している学生の中でも女子学生は半数はいます。(日本では7%)彼女たちは本当にのびのびと数学に取り組んでいるようで、ちょっとうらやましくなります。でも決して日本人の女性が外国の女性より数学の能力が劣っているというわけではないと思います。小林さんの言うように日本では「女性は数学に向かない」という思い込みが女性を数学から排除しているのではないのでしょうか。このような通説を親や先生から聞いた中学や高校の女子生徒は、素直な生徒ならなおさらのこと自分の将来を考えると数学を除外してしまうでしょう。そして数学を勉強する上で困難にぶつかったとき、「私は女だからできないのだ、できなくて当然なのだ」と思ってそれ以上チャレンジしないということになります。数学はわからないことを主体的に考えてわかって初めて真の理解が得られるものなのに。

この状態がとても残念に思われて、私自身これまでの県内での講演の折りにこの話を何度かさせていただきました。現役の中学生が、同じように残念に思っているような立派な論文を書いて論証していることを見てとても嬉しくなりました。男性も女性も自分の力を最大限に発揮して輝いて生きていける社会になってほしいと思いますが、このような若い人が出てきているのですから、将来は明るいと確信しております。

県内初の民間基金がスタートしました!

DV被害者が自立の一步を踏み出すための一時支援金を無利子で貸出します

DV(ドメスティック・バイオレンス)問題は社会認知もされ、徐々に支援の輪も広がっていますが、未だ被害の相談件数は増加しています。また、子どもへの影響も深刻です。バサバは、誰もが安心して暮らせる何事も暴力で解決しない社会を願って活動します。

賛同するみなさんの会費・寄付で運営されます。あなたのサポートをお願いいたします。

〈会費・寄付振込先〉

ゆうちょ銀行〇七九店(079)当座預金口座番号0057876  
口座名 サポート基金バサバ  
問合せ先:080-6358-0838

バサバって?  
フランス語で、  
「一歩一歩」という意味です。

悩んでいることは  
ありませんか  
ひとりで悩まないでご相談ください

DV(夫や恋人からの暴力)  
家庭や職場のトラブルや悩み事など  
高岡市男女平等推進センター相談室  
TEL 0766-20-1811



主なデータ	平成20年度の	相談件数: 2,531件 (延件数)
		主な主訴: ①生き方(44.7%) ②DV(25.6%) ③夫婦の問題(17.8%)
		年齢別: ①30歳代(54.4%) ②40歳代(22.5%)

相談室より

相談室では一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、相談者自身が自分の力を発揮して問題解決に取り組んでいけるようなサポートを行っています。  
電話相談や面接の中で相談員とともに問題を整理しながら、今後の見通しをつけていくための知識や情報も提供しています。

相談時間 9:30~16:30 月・火・水・金・土  
14:00~20:00 木  
【電話相談】【面接相談】(面接相談は予約が必要です。)  
※休館日は、毎月第4月曜日・12月29日から翌年の1月3日です。  
(相談業務は毎週日曜日がお休みです。)  
高岡市末広町1-7(ウイングウイング高岡6階) ●JR高岡駅前

編集後記

開町400年にちなんだ行事で、幾度となく利長くんを見かけます。愛らしいリラックスと動きですっかり高岡のマスコットとして定着した利長くん。今では市民誰もが知っている存在です。私たち男女共同参画推進員連絡会も、市民の皆さんに今以上周知して頂けるよう活動していきたいと思ひます。  
(瀧澤 健治)

この広報紙は高岡市のホームページからもご覧いただけます。



利長くん

『女と男のパートナー会議』開催のお知らせ

DVはあなたが思うより身近な問題で年々増加しています。あなたの周りでも起こっていませんか? 難しい話ではありません。一緒に考えてみませんか?

日時 2009年9月23日(水・祝) 午後1時30分~3時30分

会場 生涯学習センターホール(ウイングウイング高岡4階)

参加費 無料(どなたでも参加できます)

内容 DVに関するロールプレイング、「気づいて!DV」会場参加者クイズ、DV根絶を願うパネル展示(10時~16時)など

高岡連絡会の推進員が演じます。ぜひご覧下さい。



### 平成21年度活動開始! 総会開催&基調講演

#### 野村 乙美氏(男女平等推進センター所長)をお迎えして 4月15日(水)

「認めあい 支えあい 共に輝く ひと と まち」について話して頂きました。ボランティアの出来る人の共通点、それは素直であること、プラス思考であること、実践出来る人、努力することを惜しまない人なのだそうです。

桃栗三年柿八年というように、町づくり、人づくりは十年かかる。人は感動を覚えてこそ人づくり、町づくりが出来る。相手の立場で接し行動する事により「認めあい 支えあい 共に輝く ひと と まち」を目指し楽しいボランティアも出来る。そして自分のためにもなるというすばらしいお話を野村流の話し方のコツや自己主張するポイント等ユーモアをたっぷり混ぜてしていただきました。さすがだなあとただただ感動していましたが、これに終わらず私も自己研鑽に励みたいと思いました。(横田 喜子)



#### 富山県男女共同参画推進員全体研修会

### DV防止と被害者支援を考える 県民シンポジウム

一切れ目のない支援を進めるために

講演ではDVの特質と本質、被害者支援の現状をふまえ、被害者を保護するだけでは終わらず、就労・住まい・社会的保障・法的支援・子供を含む精神的ケアなど、多面的な支援が必要であることをわかりやすく話された。

また戒能氏をコーディネーターとしたシンポジウムでは、三氏それぞれの立場からの意見を聞くことができた。柏倉氏は行政の取組として相談窓口の一元化、関連機関との連携による迅速な対応や同行支援の重要性をあげられた。小林氏は自身が被害者だった経験より、相手への恐怖による自己肯定感の喪失や自分が悪い

4月25日(土) 於:富山国際会議場

基調講演講師:お茶の水女子大学理事副学長 戒能 民江氏  
シンポジスト:千葉県野田市保健福祉部男女共同参画課副主幹 柏倉 一浩氏  
NPO法人ハッピーウーマンプロジェクト理事長 小林 涼子氏  
富山県女性相談センター所長 河井 真紀子氏

と思うことで社会から孤立してしまう心理を話され、河井氏からは富山県の実態と支援について相談件数データをもとに説明があった。

当日、活動資料として「DV被害者対応マニュアル」が配布された。これからも推進員として、一人でも多くの方にDV防止を伝え、DVに苦しむ方々が自立し歩みだされることを願っている。(野崎 里見)



## mini地区 懇談会

各会場では、男女平等・共同参画都市宣言を参加者全員で唱和しています!



#### 石堤校区

3月6日(金) 於:石堤小学校(16名参加)

DVD「ワークライフバランスを知っていますか?」を視聴し、参加者の意見をまとめました。

ワークライフバランスの大切さを再認識する一方、経営者の意識を変えることが優先・現状不況下では非現実的・職種によっては無理があるのでは?等の意見が聞かれました。

我々推進員の存在をより多くの方に知っていただくことを含め、より多くの活動を心がけねば、と感じました。



#### 定塚校区

6月25日(木) 於:高岡市立定塚公民館(27名参加)

「わが家の男女共同参画」と題したワークショップを行いました。「親を学び伝える学習プログラム」のエピソードを参考に、家族の絆や協力し合う姿をどのような場面で子どもに見せていけばよいか、5、6名のグループになって話し合いました。家族のイベントの時にがんばる、普段から家事を分担している、一緒に食事をしてたくさん話す、「おはよう」「ありがとう」という声かけを大事にしているなど、いろいろな声が聞かれました。



#### 木津校区

6月17日(水) 於:木津公民館(55名参加)

講師に当会会長の沙魚川万紀子氏を招き、「男女共同参画は家庭から」と題し講演があり、その後、推進員によるロールプレイング「すぐできる家庭での男女共同参画」を行いました。また、「子育てにみる男女共同参画・今と昔」をテーマとし、木津地区における子育ての特徴をあぶりだし高岡市の男女平等推進プランと照らし合わせ地域としての、また個人各々が努力することを目指しました。

#### 国吉校区

6月28日(日) 於:高岡市立国吉公民館(43名参加)

推進員によるロールプレイング「すぐできる家庭での男女共同参画」を行った後、グループディスカッションの場を設けました。女だから、男だからとこだわらないで、互いに認め合い、支えあっていくのが良いとの意見があり、推進プランと同じだなと思いました。

さらに、ロールプレイング「DVを知っていますか?」を行い高岡市の相談場所の案内を含め、より理解を深めました。



## 平成21年度 ミニ地区懇談会開催スケジュール

各地区で懇談会を開催中です。多数の方々の参加をお待ちしています。(8月10日現在)

五位山	赤丸	西五位	大滝	山王	福岡	中田	戸出西部	戸出東部	石堤	千鳥丘	東五位	牧野	西広谷	国吉	太田	古府	伏木	野村	二塚	下関	万葉	能町	成美	木津	南条	博労	西条	川原	横田	平米	定塚	校下名
11月中旬	開催日未定	開催日未定	合同開催	開催日未定	開催日未定	合同開催	合同開催	開催日未定	3月6日(金)開催済	11月20日(金)	11月中旬	10月16日(金)	開催日未定	6月28日(日)開催済	合同開催	11月24日(火)	合同開催	合同開催	11月11日(水)	10月中	10月10日(土)	11月20日(金)	6月17日(水)開催済	6月18日(木)開催済	開催日未定	11月下旬	開催日未定	開催日未定	9月14日(月)	6月25日(木)開催済	開催予定日	

#### ミニ学習会1 5月20日(水)

### 「裁判員制度について知ろう!」

DVD視聴とお話:富山地方検察庁高岡支部統括検務官 三島 松秀氏

裁判員制度がとうとう始まった。DVD視聴では、よく知っている俳優たちのおかげでわかりやすく観ることができた。制度への賛否両論が新聞にも載っているが、国民参加によりその視点が反映され、裁判がよりよいものになるのなら良い制度だ。

もし私のようなものが選ばれて審議や討議する立場になったら、本当にできるか不安が大きい。しかし、素人である私たちの常識的な考え方や感じ方が必要であり、重要かもしれない。そのためにも私たち一人一人が、子育てや夫婦関係、地域活動や社会への関心などの普段の生活をしっかりと積み重ねていかなければならないと感じた。(荒井 典恵)

#### ミニ学習会2 6月17日(水)

### 「女と男のいる社会」

講師:人権擁護委員協議会会長 肥田 啓章氏

人権擁護委員は、私たち推進員とは違う立場から男女共同参画に取り組んでおられる。肥田氏は僧侶の身であり、自身の修行時代に体験された「いま使う自分より、次に使う人が気持ちよく使えるように」という下座行の心構えや、「自分の誕生日は母の苦しんだ日」だから母に感謝する日という父母恩重経の教えなどを話された。

自分以外の人を思いやる心が大切であり、長い時間枠と大きな視野で考えれば小さな我欲は気にならなくなる。そして個々の権利を振りかざさず、人を人として尊重することが「人権・性別・民族の垣根を越えてお互いを認め合い、平和な社会を目指す」すべとなる。私たち自身が現代社会の中で「どう生きるか」について話された。(大乗 行博)



#### ミニ学習会3 7月15日(水)

### 「配偶者からの暴力の根絶を目指して」内閣府提供DVDを視聴して

始まりは目の周りを内出血で変色させ呆然と立つ母親と、それをカメラで写す息子の場面だ。きっかけは夫婦間の小さな言い合いだが、手が出てしまったからは夫がイライラするたびに暴力が繰り返される。ただ、翌日には優しくなるため、妻は愛されている、夫の行為は自分のせいだと思ひ込む。他人には話せず、なおさら自分の中に

閉じこもり無気力になっていく。言葉による精神的暴力、生活費を渡さない経済的暴力もDVであり、加害者も被害者もそれに早く気付いてほしい。そしていろいろな相談機関を利用し、次のステップに進む必要がある。こんな両親と暮らす子供の心に害はないのかとても心配になった。(吉田 裕子)

月1回、定例会 & ミニ学習会を開催しています。ミニ学習会は3回ともオープン開催で、一般の方も参加できました。